

JMS NOTES



「人と医療のあいだに・・・」

第52期 第2四半期事業のご報告

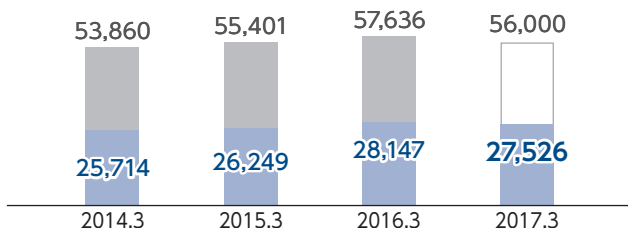
2016年(平成28年)4月1日～2016年(平成28年)9月30日

連結財務ハイライト 第52期 第2四半期業績(累計)

売上高

275億26百万円

(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



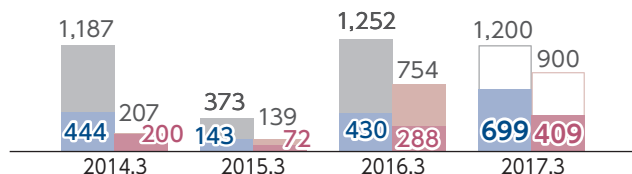
経常利益

6億99百万円

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 4億9百万円

(百万円) ■ 経常利益 ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想

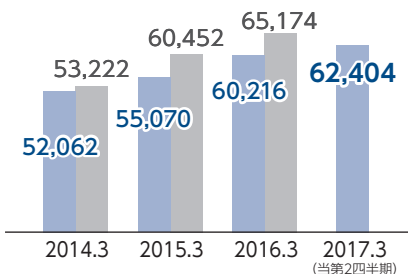
■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



総資産

624億4百万円

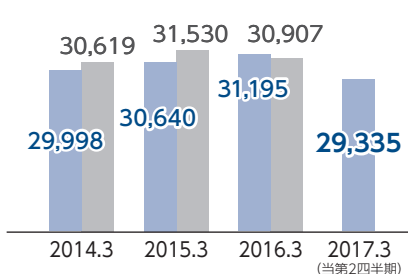
(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



純資産

293億35百万円

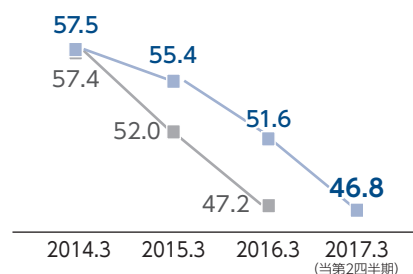
(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



自己資本比率

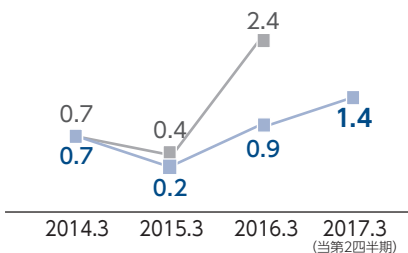
46.8%

(%) ■ 第2四半期 ■ 通期



自己資本四半期(当期)純利益率(ROE) 1.4%

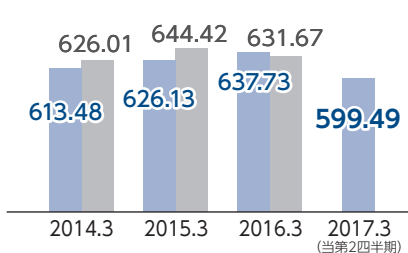
(%) ■ 第2四半期 ■ 通期



1株当たり純資産

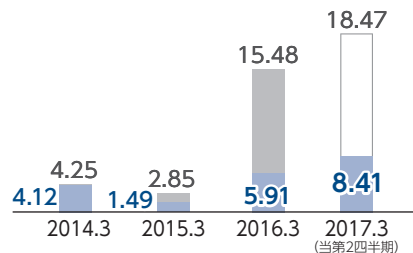
599円49銭

(円) ■ 第2四半期 ■ 通期



1株当たり四半期(当期)純利益 8円41銭

(円) ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



【見通しに関する注意事項】

上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



代表取締役社長
奥窪 宏章

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第52期第2四半期(2016年4月1日から2016年9月30日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、経腸栄養システム製品の販売および白血球除去フィルター付血液バッグの販売が増加しました。海外においては、成分献血用回路の販売が好調に推移したものの、円高により海外売上高の円貨換算額が減少しました。

この結果、当第2四半期の売上高は、前年同四半期に比べ6億21百万円減少の275億26百万円(前年同四半期比2.2%減)となりました。

利益につきましては、大型投資にかかる償却負担の増加等があるものの、高付加価値品の販売増加により、営業利益は5億92百万円(同13.2%増)となりました。また、持分法による投資利益を計上したこと等により、経常利益は6億99百万円(同62.5%増)となり、税金費用等を差し引いた結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億9百万円(同42.2%増)となりました。

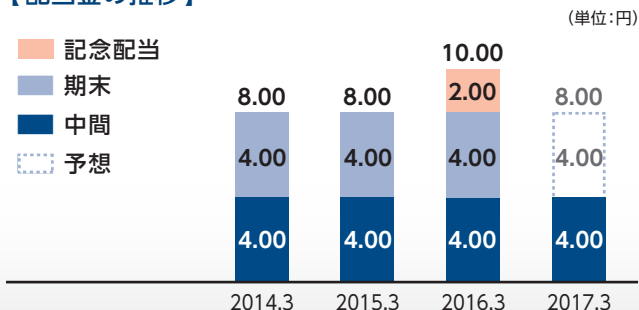
中間配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき4円とさせていただきます。

当社は、これからも創業精神「かけがえのない生命のために」のもと、医療を必要とする人と支える人の架け橋として、人々のより豊かな生活とその社会に貢献することを志とし、医療とともに歩んでまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月

【配当金の推移】

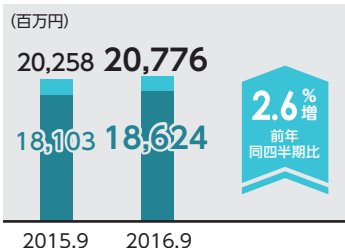


【所在地別】

日本

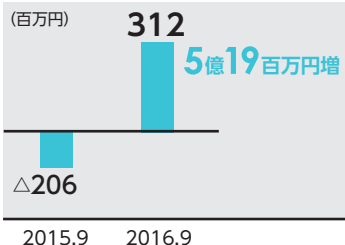
売上高 **207億76百万円**

(外部顧客への売上高 186億24百万円)



経腸栄養システム製品の販売に加え、白血球除去フィルター付血液バッグの販売が増加しました。

セグメント利益 **3億12百万円**

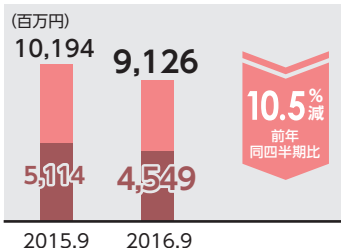


償却負担の増加等があるものの、増収効果により利益は黒字となりました。

東南アジア

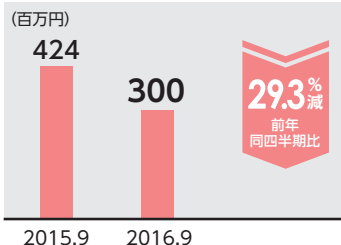
売上高 **91億26百万円**

(外部顧客への売上高 45億49百万円)



北米向けの成分献血用回路の販売が好調に推移したものの、円高により円貨換算額は減少しました。

セグメント利益 **3億円**

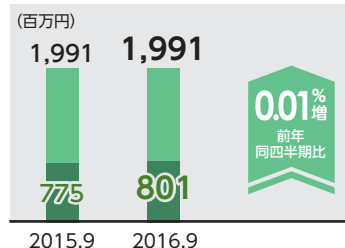


販売価格の低下等により利益が減少しました。

中国

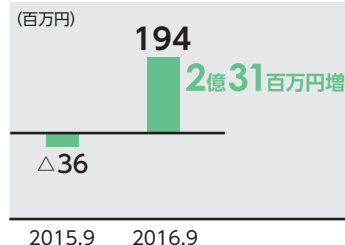
売上高 **19億91百万円**

(外部顧客への売上高 8億1百万円)



日本向け輸液セットの販売が増加したものの、円高により円貨換算額は微増にとどまりました。

セグメント利益 **1億94百万円**

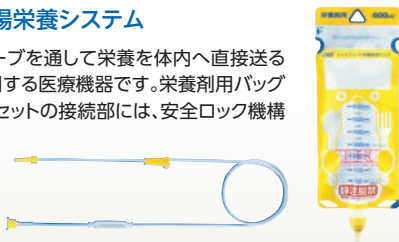


現地通貨ベースの増収効果等により黒字となりました。

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値であります。

ジェイフィード経腸栄養システム

経腸栄養療法(チューブを通して栄養を体内へ直接送る療法)を行う際に使用する医療機器です。栄養剤用バッグや栄養ボトルと栄養セットの接続部には、安全ロック機構を採用することで、離脱防止による安全対策を提案しています。



白血球除去フィルター付血液バッグ

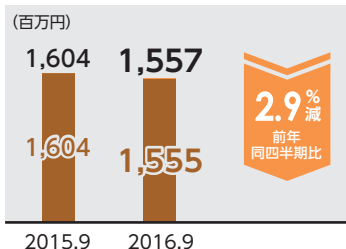
献血で採血した血液の保存、輸血に用いられるバッグです。採血した血液から、輸血による副作用の原因の一つである白血球を取り除くフィルターが付いています。



ドイツ

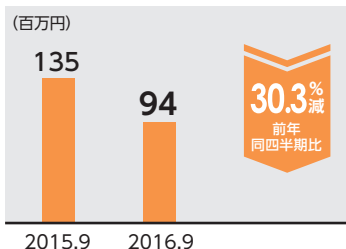
売上高 **15億57百万円**

(外部顧客への売上高 15億55百万円)



ドイツ国内向けのAVF針の販売が増加したものの、円高により円貨換算額は減少しました。

セグメント利益 **94百万円**

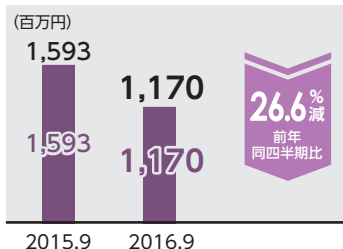


為替による外貨建ての仕入取引にかかる原価の増加により利益が減少しました。

アメリカ

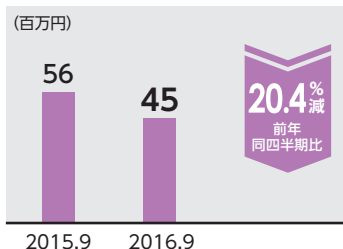
売上高 **11億70百万円**

(外部顧客への売上高 11億70百万円)



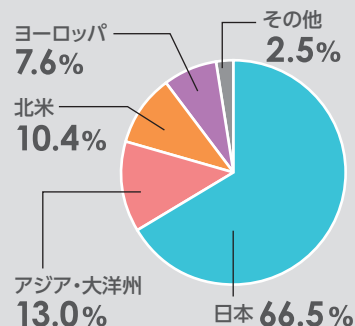
北米向けのAVF針の販売が減少しました。

セグメント利益 **45百万円**

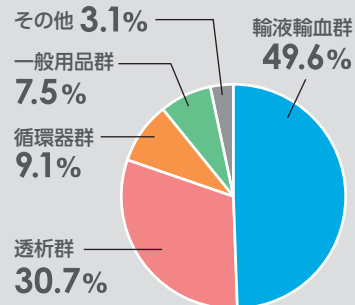


減収の影響により利益が減少しました。

地域別売上高構成比



システム別売上高構成比



輸液輸血群

輸液セット、経腸栄養システム製品、血液バッグ、成分献血用回路、シリンジ(注射筒)、注射針 他

透析群

血液透析装置、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液 他

循環器群

膜型人工肺、ペースメーカー、人工心肺装置、人工心肺回路、血管造影用・治療用カテーテル 他

一般用品群

医療用手袋、不織布製品 他

ニードルレスアクセスポート「プラネクタ」付輸液セット

注射針のない注射筒での接続を可能にした「プラネクタ」を備えた輸液セットです。より安全・安心な医療環境の実現をサポートしています。



AVF針(血液透析用針)

血液透析を行う際に、シャント(動脈と静脈を接合した部位)から血液を体外へ取り出すための針です。



先進的な透析技術でより安全に省力化を推進する JMS透析システム

当社は、「血液透析」と「腹膜透析」の両製品群を
自社開発により取り揃える国内唯一の医療機器メーカーです。
また、日本で培った最先端の透析システムを海外に向けても展開しています。
今回は、当社の血液透析システムの特長と施設インタビューをご紹介します。



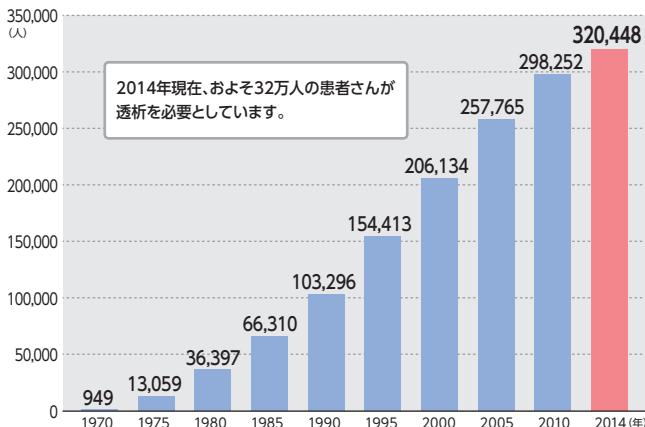
■ 透析医療の現状と課題

日本では、腎臓機能の低下による腎不全や尿毒症などの原因から、慢性的に透析を必要とする患者数は増加(グラフ)しています。

また、医療技術の向上による透析治療期間の延伸や患者さんの増加などの影響により、医療スタッフの負担も増大しており、透析を行う多くの医療機関では、安全性の確保はもとより質の高い医療を安定的に提供し、かつ現場の省力化を図ることが大きな課題となっています。

そうした医療現場が抱える多くの課題に対応するのが、当社の透析システムです。

【慢性透析患者数の推移】



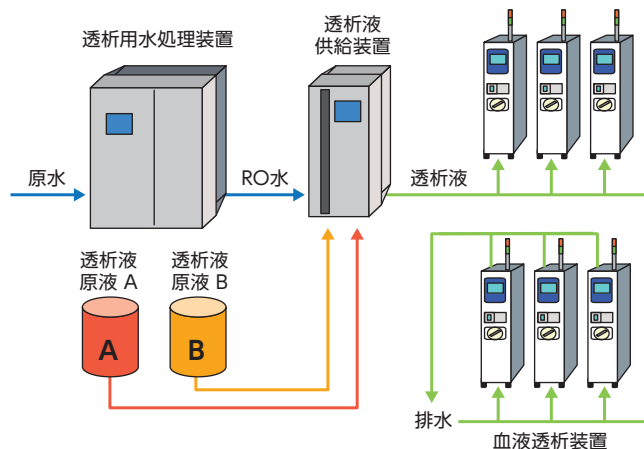
参考:日本透析医学会「図解 わが国の慢性透析療法の現状 2014年12月31現在」

■ 透析液供給システム

血液透析療法における透析液の供給方法は、海外で主流となっている「個別方式」と日本で普及している「セントラル方式」の2種類があります。個別方式では、血液透析装置1台ずつそれぞれが透析液を調製します。

一方セントラル方式では、大型の透析液供給装置でまとめて調製した透析液をそれぞれの血液透析装置へ供給することで高度に清浄化された透析液を供給・管理することが可能となり、臨床的にも経済的にも優れた日本独自の供給方式として国内に普及しています。

【セントラル方式】



■ JMSの透析システム

透析環境を改善し、医療従事者の作業負担を軽減

当社は、血液透析装置の操作の自動化や透析液の清浄化等において、常に先進的で信頼性の高い製品群をトータルシステム

で提供するメーカーとして、医療機関から確かな評価をいただいています。

■ システムの特長

機械室／透析液清浄化を追求し安全性を確保

血液透析では、合併症のリスクを低減することが重要な課題であり、その課題解決のためには透析液の調製に使用する不純物を含まない安全で安心な水（RO水）が大量に必要となります。

当社の透析用水処理装置は、より純度の高いRO水の精製に加え、精製時に必要となるRO膜を長寿命化する特長をもつ自社開発の装置です。この透析用水処理装置と粉末溶解装置、透析液供給装置を連動制御することで、透析液調製の自動化を実現しています。

また多様化する洗浄・消毒方法に対しても、省力化を実現します。



透析用水処理装置



透析液供給装置

透析室／自動化した透析装置で安全性の向上を実現

患者さんに透析を行う当社の血液透析装置は、オンラインで透析時のさまざまな情報をモニタリングし、かつ透析の基本操作を自動制御します。

中でも、透析中の血圧低下などで患者さんの容態が急変した時には、スイッチ操作のみで一時対応を安全かつ迅速に行うことを可能にしました。さらに、透析の開始と終了時に行われる脱血、返血業務の自動化は、透析時間の短縮にも貢献しています。

この当社の血液透析装置により、透析時の基本操作が標準化・効率化され、医療事故や感染リスクの予防など医療の安全性向上と医療スタッフの負担軽減を両立しています。



血液透析装置

これからも当社は、医療現場の抱える多くの課題を解決し患者さんが安心して透析治療を続けられるよう、自社開発の強みを活かした透析システムの提供に取り組んでまいります。

世界最高水準の透析専門クリニックでも、JMSの透析システムが高く評価されています。

当社の透析システムが実際の医療現場でどのように使われ、どのように活躍しているかをご紹介します。

今回取材させていただいた、医療法人「偕行会」様は、愛知県を中心として急性期病院を始め、予防やリハビリ、

在宅ケアなど最先端の医療施設を全国で総合的に展開されている医療グループです。

偕行会グループ全体の透析医療技術を牽引するフラッグシップ的な存在である

「名港共立クリニック」様は、透析専門クリニックとして国内外の医療機関から

「世界最高水準」との高い評価を得ています。

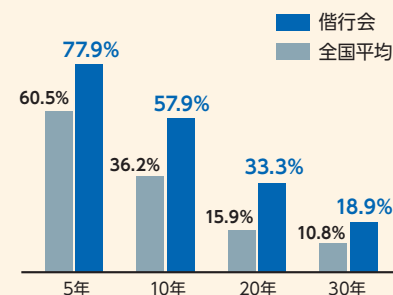


医療法人 偕行会 透析事業本部 透析技術部長
名港共立クリニック 部長

田岡 正宏 氏

「名港共立クリニック」の部長であり、医療法人「偕行会」全体の透析事業本部における透析技術部長、臨床工学統括部長を兼務。「偕行会」グループだけでなく日本の透析医療を牽引するキーパーソンといえるスペシャリストで、その豊かな発想と実績から「透析医療界のエジソン」とも称されている。

〔偕行会の透析患者様の生存率比較〕



◎偕行会グループで透析医療を受けている患者生存率は、全国平均を約2割も上回る。

参考：偕行会透析事業本部 作成資料による

名港共立クリニック様の透析治療の概要と特長をお聞かせください。

現在このクリニックでは、約250名の患者様が透析治療を受けておられますが、一般の透析クリニックに比べ、スタッフ数は1/2程度しか必要としていません。これはスタッフが有能なことで、透析操作の大部分を自動化した透析用コンソールなど最先端のIT技術や設備をうまく活用しているからといえます。

具体的には、どのようにJMS透析システムを活用しているのですか？

血液透析を行う上では、気泡混入、失血、過除水、感染症の4点に対する注意が最も大切です。異常や事故が万一にでもおこると生命の危険にもかかわりますから、リスクを極限まで引き下げる対策のひとつとして、最新鋭の設備やIT機器を多数導入しています。

その代表的な装置が透析用コンソールです。透析用コンソールは、透析液を大量かつ安全・確実に作業させるための装置です。

透析治療では、患者様の体調や体重などその日の状態にあわせて除水量などを調整管理することが重要なのですが、人のチェックだけで行おうとすると、情報量も膨大になりヒューマンエラーもおきやすくなります。しかし当クリニックでは治療前に検査・問診した患者様毎のデータを、すぐに透析用コンソールに登録します。そうすることで、各患者様の状態に合わせて最適な透析治療を行うことができ、安全性も高まり、スタッフの負担も軽減されます。



RO水処理システムについては、いかがですか？

RO水は透析治療の要ともいえる要素で、とても重要です。ポイントとしては「菌」を徹底的に除去してやることと、水道水に含まれる「塩素」や「電解質」の中和に目を向ける必要があります。透析治療の黎明期には、水に含まれる不純物のため、治療を始めると悪寒やふるえを訴える患者様もいらっしゃいましたが、JMSのRO水処理システムではそんな心配がなくなりました。患者様も気持ちよく治療を受けられ、治療後にはすぐにベッドを離れ、治療前より軽い足取りになって帰られる患者様もたくさんいらっしゃいます。

またJMSのRO水処理装置は、常温で菌を処理できることも大きな特長といえます。他メーカーでは熱湯消毒により滅菌する装置もありますが、それでは装置内のフィルターやパイプ類の耐久性に問題が生じる可能性が高まるだけでなく、病院の配管系統にも負荷がかかり余計なコストが発生します。JMSの装置は、常温で使えるという意味でもとても優秀です。

田岡部長は、名港共立クリニックの設備設計等にも携わったとお聞きました。その際、JMSの透析システムをご採用いただいたのはどのような理由からですか？

当クリニックは「日本一の透析クリニック」を目指しています。当然、導入する透析システムも最先端で最優秀であることを基準に選びました。JMSの機器類は、他メーカーに比べ、構造がシンプルで、部品一つひとつが厳選されています。そのため汚染リスクも故障も少ない構造になっています。

さらに、操作するスタッフ目線で作られていることも重要です。透析用コンソールをはじめ各機器に関しては、私も臨床の立場からいろいろな意見を言わせていただいております。JMSさんはその意見を機器に反映してくださっています。つまりこれらの機器は、病院スタッフとメーカーが一緒になって開発したシステムといえます。だからこそ医療現場の実情に即し、スタッフにも患者様にも喜ばれる機器になっているのだと思います。



最後に、これからの透析治療はどのように進化していくとお考えですか？

名港共立クリニックで行っている「人のチカラと最新IT技術を融合した透析治療」は、おそらく世界でも最先端といえますが、それでも私が10年前に理想として描いていた夢が、ようやく現実になってきた程度だと思っています。日本の透析治療はまだまだ進化できるはずです。機器をよりコンパクトに、配管・配線はより少なく、スタッフの負担も患者様の負担ももっと軽くなど、私の視線は10年先をみつめています。

JMSさんと一緒になって、また新たな透析システムを開発していけたらいいですね。

中国における透析医療提供プロジェクトの推進

中国では、現在透析を必要とする患者は38万人にのぼり、末期腎不全患者は200万人ともいわれています。しかし治療成績は十分とはいえない状態にあります。

中国では日本とは異なる個別方式が主流となっています。当社は、中国でも日本式の透析医療を浸透させていくために、セントラル方式血液透析装置の販売承認を取得しました。

そして中国国内の病院へ日本式の透析システムを導入。現在、中国人医療スタッフへの研修や中国でのセミナー開催などの活動を行っています。

経済産業省の補助事業に採択されました

経済産業省では、高品質な日本式医療技術・サービスの国際展開を進めており、その一環として、「医療技術・サービス拠点化促進事業」を担う事業者の取り組みを支援しています。このたび、経済産業省の支援を受けて設立されたMEJ(Medical Excellence JAPAN)の「医療技術・サービス拠点化促進事業」に当社の「中国における日本の優れた透析医療提供プロジェクト」が、平成28年度の補助事業に採択されました。

当社はこれから、自社での取り組みと同時に、国のプロジェクトにも積極的に参加し、後押しも受けながら、中国での事業展開を加速させていきます。

輸液療法・栄養療法のリーディングカンパニー フレゼニウスカービ社と事業提携

当社は、ドイツに本社を置く「フレゼニウスカービ社」の日本法人「フレゼニウスカービジャパン(株)」と事業提携しました。フレゼニウスカービ社は、輸液療法および栄養療法のリーディングカンパニーとして、また輸血技術製品のトップメーカーとして高く評価されている国際的なヘルスケア企業です。

2016年4月より日本国内総発売元として、フレゼニウスカービ社製の経腸栄養製品、麻酔関連薬剤などの取り扱いを開始しました。製品ラインアップの補強に加え、急性期

医療分野における麻酔科医や薬剤部などとの顧客接点の拡大により相乗効果を発揮し、事業の更なる発展を図ってまいります。



麻酔関連薬剤



経腸栄養ポンプ

シンプル設計で安全性に優れた動脈フィルタ内蔵膜型人工肺 「オキシア®ACF」の販売を開始

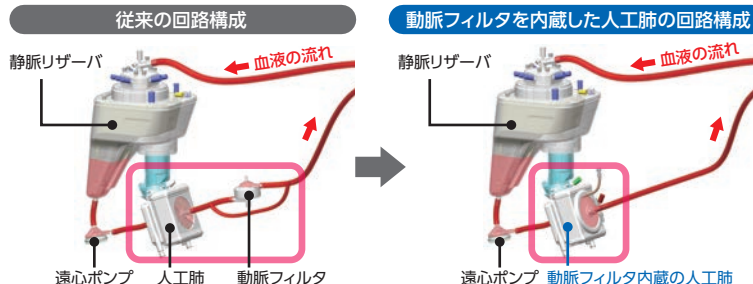
心臓の動きを止める必要がある心臓血管外科手術においては、一時的に心臓と肺の機能を代行する人工心肺システムを使用します。新たに販売を開始した「オキシア®ACF」は人工肺に動脈フィルタを内蔵し、シンプルな設計で操作性と安全性を向上させることで、医療従事者の負担軽減や患者

さんへの低侵襲な治療を実現しています。

さらに血液出口ポートの向きを自由に変えられる回転機構により、手術室で最適な回路レイアウトに対応でき、リスク低減や作業性向上にも役立っています。



動脈フィルタ内蔵膜型人工肺「オキシア®ACF」



グローバル戦略を加速する

フィリピン工場から日本向け輸出開始

フィリピン工場は拡大する海外市場において、より競争力を高める戦略拠点のひとつとして操業を開始し、2016年5月より日本向け輸液セットの輸出を開始しました。フィリピン工場では、輸液セットや血液バッグなどの生産を行い、フィリピン国内はもとより医療ニーズが増すアジア市場に向けて競争力のある製品を供給していきます。

今後もグローバルな視点から供給能力の増大と競争力の向上を図るとともに、グループ生産体制の再編を加速させ、世界最適地生産を強化してまいります。



フィリピン工場のスタッフ

広島市の被爆樹木の保存活動を推進する

「緑」の伝言プロジェクトに協賛

広島市には、爆心地から約2km以内で被爆した樹木が約170本残っています。

こうした樹木は被爆の実相を語り、惨禍を乗り越えた生命力の象徴ともいえることから、広島市平和推進部の声がけにより多くの市民や企業が参加して、「緑の伝言プロジェクト」として保存活動を進めています。

当社は、このプロジェクトに共感し、2009年から被爆樹木の保存・樹勢回復活動を支援しています。

Green Greetings
from 160 A Bombed Trees in Hiroshima

「緑」の伝言。

もっと知ってください。[被爆樹木]のこと。「緑」の伝言サイト

www.green-greetings.com

緑の伝言

緑の伝言



財務諸表《連結》

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度 2016年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2016年9月30日現在	科 目	前連結 会計年度 2016年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2016年9月30日現在
《資産の部》			《負債の部》		
流動資産①	35,205	33,924	流動負債③	21,744	19,004
現金及び預金	5,927	5,217	固定負債④	12,522	14,063
受取手形及び売掛金	15,714	15,352	負債合計	34,266	33,068
たな卸資産	12,449	12,035			
その他	1,114	1,318	《純資産の部》		
固定資産②	29,968	28,480	株主資本	30,111	30,227
有形固定資産	25,159	23,767	その他の包括利益累計額	678	△1,008
無形固定資産	508	510	非支配株主持分	117	116
投資その他の資産	4,299	4,202	純資産合計⑤	30,907	29,335
資産合計	65,174	62,404	負債純資産合計	65,174	62,404

POINT 解説

① 流動資産 [前連結会計年度末に比べ
12億81百万円減少]

・現金及び預金が減少しました。

④ 固定負債 [前連結会計年度末に比べ
15億41百万円増加]

・長期借入金が増加しました。

② 固定資産 [前連結会計年度末に比べ
14億87百万円減少]

・有形固定資産が減少しました。

⑤ 純資産 [前連結会計年度末に比べ
15億71百万円減少]

・為替換算調整勘定が減少しました。

③ 流動負債 [前連結会計年度末に比べ
27億39百万円減少]

・設備関係支払手形が減少しました。

(注) 金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2015年4月1日～ 2015年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2016年4月1日～ 2016年9月30日
売上高	28,147	27,526
売上原価	20,998	20,363
売上総利益	7,149	7,162
販売費及び一般管理費	6,625	6,569
営業利益	523	592
営業外収益	293	250
営業外費用	386	143
経常利益	430	699
特別利益	74	101
特別損失	27	113
税金等調整前四半期純利益	477	687
法人税等	185	270
四半期純利益	291	416
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	288	409

》》》 POINT 解説

⑥ 売上高 〔 前年同四半期に比べ
6億21百万円減少 〕

・地域別では日本での販売、システム別では輸液輸血群及び循環器群の販売が増加しました。円高により海外売上高の円貨換算額が減少しました。

⑦ 営業利益 〔 前年同四半期に比べ
69百万円増加 〕

・高付加価値製品の販売増加により、大型投資にかかる償却負担を吸収して増益となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2015年4月1日～ 2015年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2016年4月1日～ 2016年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,522	2,399
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,180	△3,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,217	1,141
現金及び現金同等物に係る換算差額	△158	△485
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△598	△717
現金及び現金同等物の期首残高	4,709	5,982
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,111	5,264

》》》 POINT 解説

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー 〔 前年同四半期に比べ
8億77百万円増加 〕

・仕入債務の増減額によるものです。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー 〔 前年同四半期に比べ
5億92百万円増加 〕

・有形固定資産の取得にかかる支出の増加によるものです。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー 〔 前年同四半期に比べ
76百万円減少 〕

・借入金の収支差額によるものです。

(注) 金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

会社概要 (2016年9月30日現在)

●当社の概要

設 立	1965年(昭和40年)6月12日
資 本 金	7,411,014,445円
上場金融商品 取 引 所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従 業 員 数	1,635人 (グループ総数 6,430人)

●役員

代表取締役社長	奥 達 宏 章	監査役(常勤)	兼 口 昇 万
常 務 取 締 役	栗 根 康 浩	監 査 役	早稲田 幸 雄
取 締 役	国 富 純	監 査 役	水 戸 晃
取 締 役	森 川 重 美		
取 締 役	佐 藤 雅 文		
取 締 役	桂 龍 司		
取 締 役	井 口 明 彦		
取 締 役	池 村 和 朗		

※井口明彦氏、池村和朗氏は、社外取締役であります。
※早稲田幸雄氏、水戸晃氏は、社外監査役であります。

JMS グローバルネットワーク

グローバル展開を推進するために、生産拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

海外ネットワーク

子会社

- ① 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- ② ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE. LTD.《製造・販売》
- ③ 大連ジェイ・エム・エス医療器具 有限公司《製造・販売》
- ④ ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- ⑤ バイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
- ⑥ PT. ジェイ・エム・エス・バタム《製造》
- ⑦ ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造》



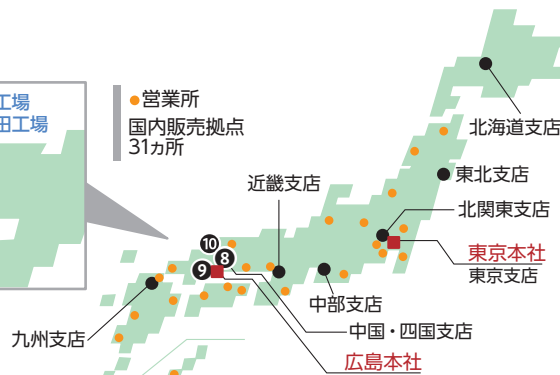
国内ネットワーク

子会社

- ⑧ ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
《医療機器の修理等》
- ⑨ 株式会社 大野《業務請負業》

関連会社

- ⑩ 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》

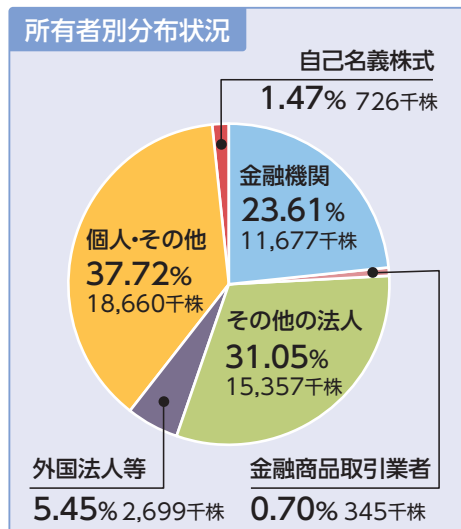


株式概要 (2016年9月30日現在)

◇発行可能株式総数 …… 100,000,000株

◇発行済株式総数 …… 49,466,932株
(自己株式726,251株を含む)

◇株主数 …… 5,151名

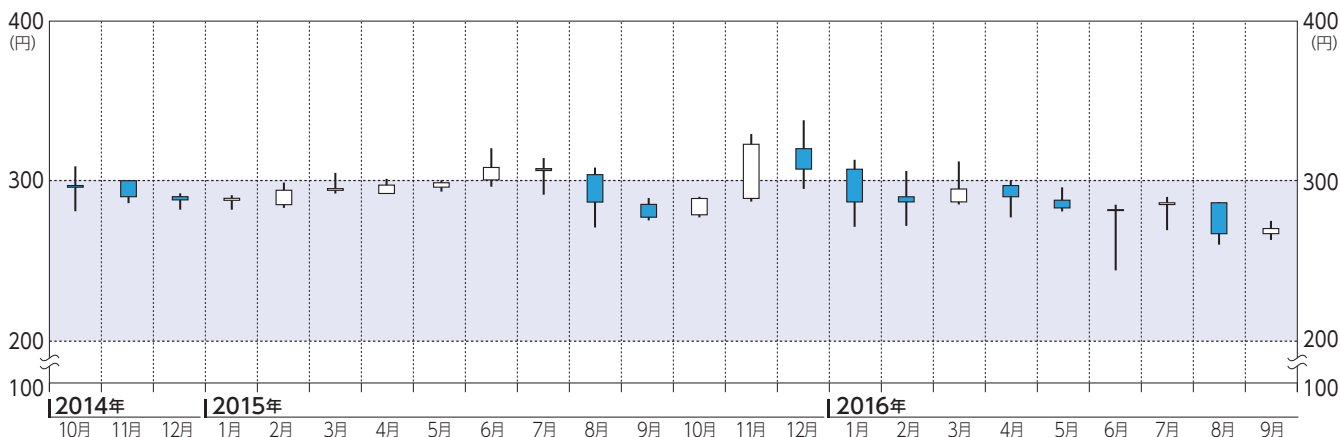


◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	4,947	10.14
一般財団法人土谷記念医学振興基金	3,800	7.79
土谷佐枝子	2,015	4.13
社会福祉法人千寿会	2,000	4.10
株式会社広島銀行	1,790	3.67
第一生命保険株式会社	1,722	3.53
大下産業株式会社	1,142	2.34
JMS共栄会	1,074	2.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	957	1.96
西川ゴム工業株式会社	760	1.55

(注) 持株比率は、自己株式(726,251株)を控除して計算しております。

◇株価推移



株主メモ 証券コード: 7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<http://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <http://www.jms.cc/> JMS 検索



株式会社 JMS

広島本社

〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社

〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】

テーマ「人と人をつなぐ力」



指先から人々や植物が連なり、どこまでも広がっていく。人々のこれからも続いていく安心な暮らし、健やかな命のつながりを願い、製品づくりに取り組むJMSの姿勢を表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。